

令和元年度 第4回 社会教育委員の会議 摘録

- 【日 時】 令和2年2月12日（水）午後3時00分～
- 【場 所】 生涯学習支援センター 1階 多目的室
- 【出席委員】 上田委員、西田委員、柿原委員、堺（婦）委員、野田委員、松尾委員、江崎（君）委員、江崎（美）委員、後藤委員、岡本委員、柿川委員、堺（裕）委員
- 【欠席委員】 藤本委員
- 【行政関係者】 中島市民協働部長、富安市民協働部調整監、大倉野生生涯学習課長、楠生涯学習課青少年担当課長、徳永スポーツ推進室長、川地世界遺産・文化財室長、平田人権・同和・男女共同参画課長、西田地域コミュニティ推進課社会教育主事、岡同課社会教育担当職員、西山同課社会教育担当職員

◆あいさつ

中島市民協働部長

◆報 告

第49回九州ブロック社会教育研究大会佐賀大会について

配布資料『研修会参加報告書』に基づき、江崎(美)委員、堺（婦）委員より報告。

令和元年度社会教育・生涯学習事業について

配布資料『社会教育事業等の推進状況』に基づき、事務局より報告。以下の意見・質問が出た。

委員	24ページに記載されている市民大学講座について、帝京大学が設立した当初、市民向けの講座を複数回行っていた。えるるで行うのではなく、帝京大学で大規模に行ってほしい。
行政関係者	帝京大学で独自に市民向けの公開講座が行われている。今の考えとしては、市民大学講座と公開講座の住み分けという点、市民の方が利用しやすいように交通の便が良い場所という点で現在えるるで行っている。多くの方に参加していただくために、工夫していきたい。
委員	ぜひ市民の方が大学に行けるように計画してほしい。
委員	78ページに記載されている「8.近代化遺産保存活用基金」について、元年度寄付件数が0件というのはどういうことか。
行政関係者	近代化遺産保存活用基金は、主に民間で所有されている近代化遺産の保存・整備のための基金である。当初は企業や個人からの寄付でもって基金を積み立てていた。主に今までは三井港倶楽部の補修に活用していたが、近年は46,738,035円の残高があり、特段寄付は募っていないため、元年度寄付件数が0件になっている。
委員	72ページにある、2020年オリンピックの聖火ランナーの候補者の選考に関する情報はあるのか。

行政関係者	候補者に関してはオリンピック委員会との関連もあり、県のほうが中心となって募集している。大牟田に因んだ人を募集していると思うが、まだ詳細はわかっていない。
行政関係者	補足すると、聖火ランナーは実施する県で行わる組織委員会が募集するもの、スポンサー企業4社で募集するもの、それぞれで募集されるため、どの募集先のランナーが、どこを走るのかはわかっていない。一部のランナーについては公表されているが、どこを走るかはわからない。
委員	せっかくの機会なので、子どもたちが参加しやすい環境を整えてほしい。
議長	72ページに「ジョージアホストタウンとして登録を行い」とあるが、登録とはどういうことか。
行政関係者	大牟田市としては、キャンプ誘致が決まってから行政府に対してホストタウンとして登録を行った。

◆議 題

大牟田市社会教育振興プラン2020～2023について

配布資料『大牟田市社会教育振興プラン2020～2023（案）』に基づき、事務局より説明。以下の意見・質問が出た。

議長	障害者の権利条約の中で、障害者の生涯学習を確保することが明記されている。障害のある人も情報にアクセスできる、場所にもアクセスできるような配慮を念頭に置いて事業を実施してほしい。
委員	ESD、SDGs はとても良い取り組みだが、学校は学力をつけるところであり、学力が現状追いついていない。
委員	大牟田市は学習塾が多い。それだけ子どもたちの学力が追いついていないのではないかと思われる。先生方も忙しいと思うが子供たちに時間をかけて教えてほしいと思う。
委員	小学校も中学校も時間をかけて行っている。子供たちの中には人の話をしっかり聞くこと苦手な子、言われたとおりに行うことが苦手な子、時間内に終わらせることが苦手な子もいる。それを親が「学校ではわからないから」と学習塾に通わせても直るわけではない。家庭での生活習慣を見直すことで、身につくのではないか。
委員	学力を上げるためには地域ぐるみで行っていかないといけないのではないか。
委員	要因をどこかというのを求めるのではなく、ESD、SDGs を通じて底力をつけると考える。点数など目に見えて分かる学力は子供の力の一部であり、一番大切な力は人と人との繋がりや、親を尊敬できること、友達を大切にできること、規範意識など学力向上を支えるための基盤だと思う。基盤があつての学力だととらえている。ESD を行っていることは身近な地域の環境、繋がりを勉強する中で問題意識を持って解決するために自分がど

	んなことができるかということ「探究的な学び」と言うが、国語力やグラフを読み取る力をベースにしながら自分たちのより良い課題解決にむけていくというのが ESD の教育なので、すぐ即効性はないが学びを続けていく事で学力の向上に繋がると考えている。
委員	地域も応援するので、地域の人を使ってほしい。
委員	ESD、SDGs は学校の中だけではないと思い、玉川校区で学校、家庭、地域を結ぶ SDGs の目標に向かって ESD、SDGs 活動委員会を立ち上げた。玉川校区と宮の原中学校と協力しながら成功させたい。

社会教育委員の会議を振り返って

委員	家庭教育の大切さがあまり会議の中に出てこなかった。親として、子供たちを育てるにあたって一番大切なのは、素直な心だと考える。親が集まって先生を批判する前に、親が正せば、学校崩壊がなくなる。やはり家庭が一番ネックになると思う。子供が育つ段階で、まず家庭で見守り、地域で見守り、そのあとに学校で見守ると考える。家庭教育の大切さも話し合っていかなければならないと思う。
委員	地域との関わりが薄れて、学校ももっと地域の協力が得られれば、子供たちにとっても、もっと素晴らしい教育ができるのではないかと思う。学力は大切なことだと思うが、中で素晴らしいプランができていると感心した。
委員	『大牟田市社会教育振興プラン2020～2023』が出されて、地域と学校が繋がるものになっていると感じた。

◆その他

成人式について

楠生涯学習課青少年担当課長より説明。

令和2年度筑後地区市町村社会教育委員研修会について

事務局より説明。筑後地区市町村社会教育委員研修会については、令和2年度大牟田市で開催。

第48回大牟田市校区コミュニティ研究大会について

事務局より説明。